

## R7年7月 ばら組ドキュメンテーション 「人形のお世話」

室内あそびの時間、子ども達はそれぞれ自由に好きなあそびを楽しんでいた。その中でA君は人形を手に取り、あそび始めた。



玩具の哺乳瓶を持ち、人形の口に当ててミルクを飲ませ上手にお世話をしていた。

### ☆考察☆

以前は座って何かに取り組むよりも、身体を動かすことが好きだったA君。しかし最近になり人形や絵本などにも興味を示し、自分から手を伸ばし落ち着いてあそぶことが増えてきている。今回の姿は、保育士や周りの友達が人形のお世話をするところを見て刺激されたり、A君の中で「赤ちゃん(人形)」と「ミルク」が結び付いたりした結果なのだと考えられる。

子ども達の成長に伴い、あそびの内容もどんどん変化していく。その変化に応じた環境や玩具の提供をしていきたい。またそういった子どもの姿を受け止め、あそびがより展開できるように声掛けをしながら、子ども達とのあそびと一緒に楽しんでいきたい。